

---

---

## 来賓挨拶

厚生労働省大臣官房 厚生科学課長  
浅沼 一成

---

---

第27回（平成30年度）研究助成発表・贈呈式の開催にあたり、厚生労働省を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、本日助成を受けられた皆さまに、心からお祝いを申し上げます。また、ヘルスリサーチフォーラムは今回で25回、四半世紀になりますけれども、これまでの長きに渡って本フォーラムが開催されてきたことは、運営にあたってこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆さまのご努力、ご尽力とともに、選考委員の先生方や関係してこられた方々のご支援の賜物と考えております。改めて、ここに感謝と敬意を表します。

さて、本フォーラムが始まった25年前、当時は介護保険の制度化や新エンゼルプランが策定された頃で、既に少子高齢化が大きな問題となっておりました。その頃と比べて、医療技術は目覚ましい発展を遂げて、最近ではゲノム医療やゲノム編集、AI（人工知能）など、先端技術が話題となっております。こうした先端技術が医療の世界で普及することによって、平均寿命もさらに延伸し、人生100年時代を迎えることができるのではないかと、大いに期待しているところです。

そのこと自体は大変喜ばしいのですが、少子高齢化が進んだことによって、わが国の労働力人口の減少による経済的な影響、慢性疾患の罹患率の増加、介護を必要とする方々の増加など、難しい問題も生じてきております。国としても、健康寿命を延伸することに努めていくとともに、今後はお一人お一人のQOLの向上を支えることが、大きな課題となっているところです。

そのような中、ヘルスリサーチという領域は、医学だけにとどまらず、介護を始めとするさまざまな学問領域を統合して、国民のQOLの向上につなげていく領域です。関係の皆さまにおかれましては、ぜひこのヘルスリサーチを発展させていただくことで、保健、医療、福祉の各分野にご貢献していただきたいと考えております。本年度の助成を受けられた皆さまが実りある研究を実施していただくことで、今後のヘルスリサーチを支えてくださるものと確信しております。また、本フォーラムも平成という時代から新たな時代に向けて、この先30年、40年と続けていただき、新たな研究成果を生み出し続けていただけることを期待しているところです。

結びとなりますが、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のますますのご発展と、本日参加された皆さまのご活躍を心から祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にめでとうございました。